

# 第3回環境基本計画 市民ワークショップの記録

## 1. ワークショップの目的

第1回、第2回 WS の結果をふりかえりながら、分野ごとの未来の国分寺のあるべき姿をテーマにワークショップを開催しました。

## 2. ワークショップの概要

日 時： 令和 5 年 11 月 25 日(土)10:00~12:30

場 所： 国分寺市役所 書庫棟会議室

参加者： 27 名

事務局： 国分寺市まちづくり部まちづくり計画課



## 3. プログラム

(1)開会のあいさつ・企画説明

(2)ワークショップ

- ・ 話題提供（過去のワークショップ結果のふりかえり等）
- ・ 4 分野に分かれたグループワーク 【分野別に第1・2回 WS の意見のふりかえり】  
【キーワードの抽出とグルーピング】  
【2050 年のありたい未来の姿の検討】  
【2030 年のあるべき未来の姿の検討】
- ・ 発表・意見交換

(3)閉会のあいさつ

## 4. グループの発表内容

参加者 27 名が4グループに分かれ、グループごと割り振られたテーマ「自然環境」「循環型社会」「生活環境」「環境教育・環境学習」について、第1・2回 WS の意見を踏まえ、2050 年とバックキャスト(逆算)で 2030 年までの未来の国分寺の姿を議論しました。テーマ別にグループごとの発表内容を以下のように整理します。

■第1.2回ワークショップの意見を踏まえた重要なキーワード

① 水と緑、いきもの

- 水を守る＝緑を守る事になる。
- 地下水、湧水の保全が必要である。
- 用水路・河川と生活との関係を強化（保全）。親水を図る。
- 自宅の植木の管理も大変である。
- 緑化率の向上を図る。
- 開発に伴う緑地の統合（提供公園一体化）
- 既存樹木の保全強化（小規模樹木の保全）
- 道端の草にも生きものが生息している。
- 姿見の池のカワセミ動画などをPRしてはどうか？
- 緑やいきものの減少がさけられない中で重点施策対象を決める。
- （環境保全に関する）情報提供の場が把握されていない。
- 市民活動団体同士の連携が図れていない。
- 市（行政）と市民の距離を感じる。市民の信用度、信頼度を上げる。

② 農地、農業

- 農地の減少は防ぐことは難しい。
- 農地を売りたい人もいる。
- 農地の減少については、実際に手放した理由（農家の立場）がわからないと対策案が浮かばない。
- 農地保全について、市としての具体策が市民に伝わっていない（こくベジ以外）。
- 生産緑地制度の市独自運用ができないか？（規模）
- 各家庭での植木や樹木の利活用を促せると良い。
- こくベジを給食に利用しており、愛着や親しみを感じている。
- こくベジについて、「国分寺市内でつくっている」以外の特色がないので差別化が図れていない。

③ ふれあい学習体験

- それぞれの地域に自然環境に親しめる場がほしい。
- 市内の魅力ある緑地を見て、知りたい。日立中央研究所や鉄道総合研究所内を見学するイベントを開催できないか？
- 環境教育について、教育の現状調査・取組団体調査・環境教育のカリキュラム作成が必要ではないか。
- 市
- の環境活動の関連性が調査されていないため、体系化が必要である。
- 草の根活動には限界がある。⇒市としての後押しが必要である。
- 活動の見える化、市からの発信を強化・整備してほしい。
- 市としても活動しているだろうが、市民・民間任せになっているのでは？市として前向きな行動・取組が見えない。
- 協働による自然保全の欠如
- 信頼できる人からの口コミであれば、環境学習イベントに参加できるのではないか。
- 市外の小中に通う子もいるため、学校以外の活動が重要である。
- 楽しみながら学べる、気づけるイベントを実施する。例）ゴミ拾い

■2050年のありたい未来の姿

水と樹木でむすぶネットワークのあるまち国分寺

- 個人の庭に植木をレンタルするまち
- 自然の中にあるまち
- 美味しいお茶の時間と水と緑を楽しむことができるまち
- 魅力ある街道が存在するまち
- 家から歩いて5分で緑豊かなまち
- きれいな水に出会えるまち

『こくベジ』のある国分寺

- 自然を愛し育むまち
- まちと人と自然が共生するまち
- 自然と暮らすまち
- 自給自足のまち
- こくベジで育った子どもたちが支えるまち
- “美しい野菜”、“安心安全な野菜”が食べられるまち
- 緑と水を保全した生活環境があると評価できるまち

『国分寺学』を学べるまち

- 緑と歴史に出会えるまち
- 緑の保全と情報発信するまち
- 小・中学校での地域の学び「国分寺学」ができるまち
- ぶんぶんウォーク国分寺学習
- 環境教育のカリキュラムを発信するまち

■2030年のあるべき未来の姿

① 水と緑、いきもの

- 古代の魅力、東山道のネットワーク
- 砂川用水が常に流れている状況になる。
- 野川が整備され、憩いの場になっている。
- 湧水地点が増えている。
- 保全緑地が市民の憩いの場になっている。
- 緑地の減少を30%で食い止める。
- 継承されない土地の市の買い取り⇒緑地対策に公園化する。
- 樹林地の保全のため、子どもの遊び場にする。
- 明治神宮の杜のような森を作る。100年後に自然の杜に育つ人工森。
- 宅地開発に関する条例を整備する。
- 宅地開発の際に整備する緑が一層強化されている。
- 公園用地の利用の多様化が進んでいる。

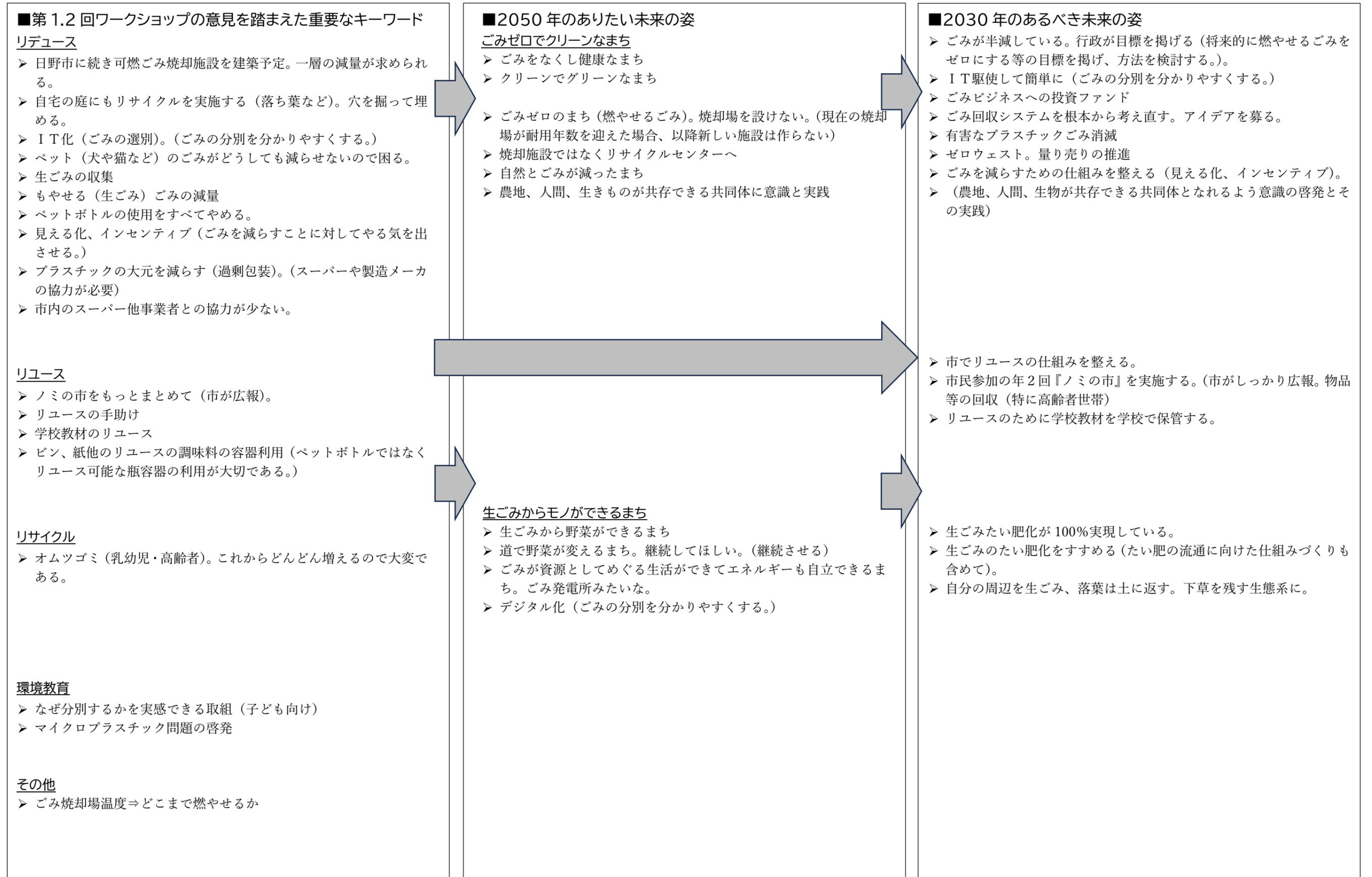
② 農地、農業

- 「こくベジ」を各戸配布するシステムの確立
- 生産緑地の魅力向上とインセンティブ付与
- こくベジがブランドとして全国的に十分認知されている。
- こくベジのブランド強化による新規就農者や6次農業のすすめ
- こくベジの定義と基準が見える化⇒安全・安心の野菜
- 「こくベジ」を他の野菜と差別化するための具体策を決める。例）農薬不使用、野菜の種類など
- 原っぱでも生産緑地でOKにする（遊び場として）。
- 農業が活性化し、市民が農作業に参加する。
- 農業が食育活動として活性化している。
- 農地・農業就労者をサポートする体制の整備

③ ふれあい学習体験

- 環境教育体制づくり⇒情報収集・対策・カリキュラム
- 市民活動全体を把握し団体同志の連携が進んでいる。
- 保全団体などの活動を支援
- 水や緑の保全に関する体験イベントをPRする。
- 市民団体の活動を誰でもすぐ知ることができるようにする。
- 自然にふれあう場やイベントを子どもや家族が検索しやすい工夫する。

## B 班 テーマ「循環型社会」



■第 1.2 回ワークショップの意見を踏まえた重要なキーワード

公害

- PFAS（有機フッ素化合物）による人体への影響が心配なので、調査をしてほしい。
- PFOS、PFOA（有機フッ素化合物）が心配であり、農作物への影響を調べてほしい
- PFAS（有機フッ素化合物）の影響について、国や都に頼らずに市として早急に血液検査を行ってほしい。
- 国分寺の水がおいしいイメージがあるので、水をブランド化できないか。
- 雨水の地下浸透がもっと進むと良い。

住環境

- 熊野神社通りの道路が細く、利用者が危険を感じている。
- 道路（歩道）の幅が狭い。
- 交通ルールの徹底
- 国分寺駅の北口からの自宅までの道路が細い。
- 高齢化社会に向けて、小型の乗り物による移動手段があると良い。
- 国分寺駅北口周辺の交通整備が必要（車、自転車、人）。
- 通学路が暗く、不安を感じる。
- シェアサイクルをもっと活用できると良い。
- 道路計画で安全性の高いまちになってほしい。

食

- こくベジのブランド化し、特産物として生かしてほしい。
- 小中学校の給食でこくベジを使うなど、こくベジをもっと身近にすることが大切である。
- 中学校給食を地域内で作っていないのは都内で3市だけであり、国分寺市内で対応できるようにするべきである。
- 中学校給食を学校内で作るようにした方が良い。
- 以前、中学校給食に異物が入っていたことを経験しているので、安全性に不安がある。

緑

- 緑にふれることができる空間があると良い。
- 援農ボランティアを活用して、市民の方にも参加してもらい、多くの市民に農作業の体験をしてもらいたい。
- 農地が宅地になってしまうので、税金など農地を守るための対策が必要である。
- 公園について、大きいところはそこそこあるが遠く、身近な小さい公園が少ない。

その他

- カラスが増えている。アライグマなどの生きものも農作物を荒らし、ふん害やごみ荒らしが問題である。
- 以前よりもカラスが増えている。
- 外来種であるインコも増えている。
- フードロス対策をするべきである。
- 生ごみをコンポストに
- 自分は学生であり、地域活動に興味があるが、国分寺市のつながりが無い。学生向けの情報提供の場がほしい。
- 空き家対策を進めていくべき。介護や育児施設として使えたら良い。
- ごみの分別方法をもっと分かりやすくし、捨てやすくしてほしい。
- リサイクルの集積場を増やし、出し方の方法を分かりやすくしてほしい。
- 冬の火事多いので、古井戸を防火用井戸として活用できると良い。

■2050 年のありたい未来の姿

おいしい水の国分寺

- 湧水が飲めるきれいな水のまち
- 湧水の豊富な水資源のまち
- 有害化学物質（PFAS など）を排出しない規制・管理のまち
- PFAS 問題はすでに解決されているまち

誰でも安全に移動できるまち

- 安心して歩ける、自転車に乗られるまち
- 歩道が広く歩道橋が多いまち
- 夜でも安心安全で歩けるまち（夜道でも明るく、安心して安全にあるけるまち）
- 歩行者、自転者利用者、自動車利用者が快適・安全に利用できるまち
- 自転車のまち（自転車で安全に走ることができるまち）
- 駅前周辺も安全に歩くことができるまち
- 高齢者でも不自由なく外出ができるまち
- 安全な歩道が整備されたまち

こくベジでつながりがひろがる！

- こくベジによるオーガニック給食が提供されているまち
- 農のあるまち（農業が盛んなまち）
- 人が集い、憩う緑の豊かなまち
- 安全でおいしいこくベジのまち
- 地産地消ができるまち。ブランド力のあるまち

その他

- ごみが少ない。

■2030 年のあるべき

未来の姿

おいしい水の国分寺

- 土壌の改善学習
- 水の安全性がモニタリングされている（水質調査が定期的に行われており、安全が確保されている。）。
- 水質の調査結果が情報公開されている。

誰でも安全に移動できるまち

- 道路拡充、街灯増設が計画される、又は工事が始まる。
- ⇒ 散歩が楽しいまち
  - ◇ 安心して登下校できる未来
  - ◇ 整備された道と乗り物の工夫
  - ◇ 駅前の車、自転車、人の分離ができています。
- 自転車ルールの向上
- 車から自転車、歩きの社会に変わっている。

こくベジでつながりがひろがる！

- こくベジを SNS などでアピール
- こくベジを SNS や著名人を起用してアピール
- こくベジでまちづくり、食育ネットワーク（こくベジを中心にまちづくりや食育ネットワークができています）。
- 庭で野菜が作れるまち（市民が家庭菜園で自ら野菜を育てている。）。

■第 1.2 回ワークショップの意見を踏まえたキーワード

こんな情報をもっと発信するべき

- 地産地消
  - こくベジのお店大賞の宣伝
  - 市内の農家が取り組む有機農業の取組のノウハウ
  - 市民の誇りとしてこくベジなど、地産地消の取組を中心的に発信

● その他

- フリーマーケットの開催情報
- 国分寺絶滅危惧種
- 国分寺のまち歩きマップ
- ハケの学習継続（はけの自然と文化をまもる会）
- 井戸水調査（安全・安心）、PFOS・PFAS（有機フッ素化合物）
- パワースポット
- 環境に関する情報が伝わらない。環境教育活動が一般のみなさんに十分に伝わっていない。

情報発信の方法を改善するためのアイデア

● 教育機関、子どもを通じた情報発信

- 小学校教育サマースクール
- 教育委員会が環境活動等の現状を把握していない。もっと情報収集をし、発信をしていく必要がある。
- 子どもを通じた親への情報発信がうまくいっている実感がない。今は情報がメールで回ってくるが、忙しさ等でスルーしてしまう人も一方、その情報をもとに学びに繋げている人もいる。
- 自然にふれあうチャンスを幼児から大人まで提供する。

● イベントを通じた情報発信

- 事業者コラボイベント
- 環境まつりの復活！
- 情報発信の際にインセンティブを付与
  - プレゼントやポイントを付与することでイベント参加が促進される。
  - 市による政策の推進にもインセンティブが欠かせない。断熱対策にも事業者インセンティブを与えるべきである。
  - 協力的な貢献事業者は、市が発信して広報に貢献する。
  - 費用対効果の可視化

● その他

- 情報発信の件、市報の記事に興味を引くようにする。
- SNS の活用、動画配信の促進。一方で、情報発信するにも SNS などは AI で情報が絞られるため、行政の発信ツールとしては難しい。
- 情報提供の方策の改善。情報発信についてホームページの活用を工夫する（形式、話題性、回数）。
- 「環境教育・環境学習」という表現自体に抵抗感があり、働いている大人にとって環境教育は無関心。SDGs（持続可能な開発目標）などのカタカナ、アルファベットにすべき。
- 国分寺全体を一齐に発信することが難しい場合もあるので、地域ごとに発信することも重要。しかし、観光スポットの発信をしたい一方で、近隣住民や管理者は踏み荒らし等で発信に反対する声もある。
- 計画進捗をダッシュボード（データの一覧を表示する資料）で公開する。

環境教育・環境学習を通じて改善すべきこと

● 食育、地産地消

- 小学校の給食は、こくベジ等の地元の食材を使って美味しい給食が提供される一方で、中学校の給食は、配送に時間がかかるため、食中毒防止の観点で取って代わって提供している。子どもの人数が減っているからといって、中学校の給食事情を改善するための予算がないということには反対である。

● 熱中症対策、家屋の断熱対策

- 節電目的でクーラーを付けずに熱中症になる人がいる。家屋の断熱対策を進めるべきである。

その他

- こくベジを子どもが食べる、畑に行く。
- 他地域とのネットワーク強化
- 協力的な貢献事業者を市が発信して広報に貢献する。
- 公園コミュニティ支援
- 畑のレンタル増やす。子どもにふれさせる。
- 貧困問題。余裕がない。
- 社会科見学ができる場所がない。
- コロナで外出が減っている。

■2050 年のありたい未来の姿

子育てしやすい国分寺！

- 子ども予算を増やす 2050
- 中学の給食を改善する。
- 子どもがあふれるまち
- 子育てしやすいまち
- 子どもに優しいまち

子どもが誇れる楽しい国分寺！

- 子どもたちが魅力を感じ、自分ごと化する。
- 子どもたちから発信する。
- 子どもたちが市を変えていけるという成功体験をしてほしい。
- 子どもに（姿見の池、雑木林などを）教えられて移住してきた。
- 子どもが住み続けたいまち

その他

- あいさつのできるまち
- SNS に頼らないまち
- イベントを通じた情報発信

■2030 年のあるべき未来の姿

子供が誇れる楽しい国分寺！を実現するための取組

- 自然、水の魅力を感じる
  - 水と緑を肌で感じるまち
  - 自然豊かなまち
  - ぶんじほたと続いていく。
- きれいな水環境
  - 飲み水、井戸水の安心
  - 湧水の利用
- 地球温暖化対策
  - エネルギー、断熱の家
- 道路の整備
- 循環型社会の実現
  - 国分寺で循環型社会を実現する。
  - ローカル循環
- 地産地消
  - こくベジ強化
  - フードロスのないまち
- 課題を解決するためにはどうすればいいのかについての情報交換